

THE ROTARY CLUB OF CHOSHI

銚子ロータリークラブ会報

国際ロータリー第2790地区

創立 昭和32年3月23日

RI承認 昭和32年4月15日

会長 松本 恭一

副会長 金島 弘

幹事 小林 昭弘

会計 金子 芳則

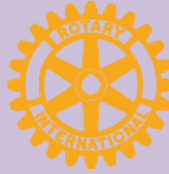
2017-2018年度 RIテーマ

ロータリー：変化をもたらす

ROTARY: MAKING A DIFFERENCE

2017-2018 RI 会長 イアンH. S. ライズリー

Rotary



例会日時 毎週水曜 12:30～

例会場 銚子商工会館5階大会議室

事務所 銚子市三軒町19-4

銚子商工会館4階

電話 0479-23-0750

ファクス 0479-25-8789

E-mail rotary@choshinet.or.jp

URL <http://www.tcs-net.ne.jp/~crc>

第2980号（2018年2月7日発行）

今週のプログラム

「ユネスコについて」

木曾 功会員

前回例会報告（1月31日）

銚子RC・銚子東RC合同例会 太陽の里

開会点鐘(18:00) 松本 恭一 会長

国歌君が代斉唱

ロータリーソング「四つのテスト」



進行：櫻井公恵 SAA

ビジター紹介：

地区ガバナーノミニー・デジグネート

漆原 摂子様（勝浦RC）

勝浦RC 幹事 吉田 理愛様

会長挨拶

本日は、1990年より始めました銚子東ロータリークラブ、銚子ロータリークラブの合同例会です。銚子東クラブの皆様におかれましては、日頃より公私共々大変お世話になっております。この場をお借りして御礼申し上げますとともに、銚子の地で合わせて現在72名の会員がおられることは、この二つのクラブが存在していること故であると存じます。

さて、本日はすばらしいゲストお二人をおよびしております。勝浦ロータリークラブより、地区

ガバナーノミニーデジグネート漆原摂子様、2020-21年度ガバナー予定者です。そして同クラブ幹事吉田理愛様です。漆原様には後ほど卓話をお願い致しますが、無理なお願いにも関わらず、快くお引き受け下さりありがとうございました。

さて、去年10月にちばぎん総研より千葉県人口動態が発表されました。千葉県を五つのブロックに分け、それぞれ2015年～2045年比でどれだけ人口が変化するかが示されています。それによると、勝浦と銚子は同じブロック、南房総から銚子までの太平洋沿いの地域になります。千葉県全体では人口が約1割減少ですが、当ブロックは4割減少するという事です。圏央道の外側は人口減少に歯止めがかからない、と結んでいます。改めて指摘されなくても良く認識していますし、ブロックの分け方といい疑問が残ります。太平洋沿いの地域は千葉県にとりお荷物である、といたいような印象を受けました。

確かに、我々の勝浦から銚子にかけての太平洋沿いは、人口減少と経済の低迷で数字から判断す



第2790地区
ガバナー 寺嶋 哲生 (柏RC)

広報・会報委員会 委員長 副島 賢治
副委員長 遠山 靖士 委員 大岩 将道

ると県内では見劣りがします。しかしこの地域が無かったなら、千葉も埼玉も大きな違いが無くなってしまいます。ということはこの地域こそ千葉県のアイデンティティという事が言えます。数字では決して表せませんが、自然が豊かで様々な歴史と文化がうごめく千葉県にとっても重要な地域のはずです。

そして、この地域から2020-21年度のガバナーが誕生すること、そしてそれが地区で初の女性ガバナーであることに大変期待を抱きます。今後心より応援し協力していきたいと存じます。

本日の卓話は、テーマ「職業とロータリーと私」です。最初は「ロータリーと私」というテーマでしたが、ロータリーの話はこれから漆原様よりいやという程聞く機会が増えることでしょうか。私の希望で職業の話題も追加させていただきました。それではこれから始まる卓話を、皆様と共に楽しみにして会長挨拶といたします。

臨時理事会報告

1) 淵岡新入候補者の件 …承認

幹事報告【週報拝受】

- 鹿島臨海RC、八日市場RC、銚子東RC
- 2018年2月のロータリー1ドル=110円
 - 財団室NEWS 2018年2月号
…ガバナー事務所
 - 抜萃のつづり拝受…懶熊平製作所
 - 次年度テーマの報告
…ガバナーエレクト橋岡久太郎様
 - 奉仕活動優秀ロータリアン推薦の件
…第7分区G補佐

【例会変更】

旭RC
2月16日(金)夜間例会 点鐘6時30分
23日(金)振替休会
24日・25日地区大会へ

佐原RC
2月22日(木)振替休会 地区大会へ

ニコニコBOX



漆原摂子様・吉田理愛様よりニコニコ😊いただきました。

卓話者紹介

島田洋二郎クラブ研修委員長



卓話

「職業とロータリーと私」
RID2790 ガバナーノミニー・デジグネート
漆原 摂子様 (勝浦RC)



皆様こんばんは。只今ご紹介いただきました、第5分区勝浦RC所属の漆原摂子と申します。本日は銚子RC様・銚子東RC様の夜間合同例会にお招きいただきまして、誠にありがとうございます。併せて、当クラブ現幹事であり、吉田理愛幹事の同席もお許しただけましたこと、深く御礼申し上げます。吉田幹事は、2020-21年度、私がガバナーになります年度の地区幹事長予定者でございます、どうぞ宜しく願い申し上げます。

今般、銚子RC様松本会長の命を受け、卓話の依頼をいただきました。そもそも私にとりましては、他クラブでの卓話はこれが初めてでございます。というわけで、大変緊張しております。どうぞよろしく願い致します。

その前に、実は当クラブは本年度創立55周年にあたります。昨年10月に地元勝浦にて開催致しました記念事業には、遠方のところを島田直前会長にお運びいただきましたこと、改めて御礼を申し上げます。当日は雨ということもあり、お足元の悪い中を、島田直前会長には駆けつけていただきましたこと、感激致しました。

その折に、銚子RC様の創立60周年記念誌を島田直前会長から頂戴致しました。昨年度、60周年でしたのですね。記念誌も拝読致しまして、銚子RC様の、



米山奨学生の複数年にわたる受け入れ、交換学生の実施、R財団補助金を利用したのフィリピン・ダバオ盲学校への支援と、国際的なプロジェクトのみならず、駅前の花壇の植え替えや、出前教室など地域と密着した素晴らしい継続事業も行っている。更に、銚子東RC様との合同の活動や親睦など、さすが伝統のおありになるクラブ、奉仕活動と親睦を実にバランスよく実施されているところは、私たちもお手本にさせていただきたく思っております。そして銚子東RC様におかれましては、昨年やはり創立45周年をお迎えされましたこと、遅れ馳せながらおめでとうございます。

さて今回卓話ということで、「職業とロータリーと私」という、あまりポリシーのない演題を付けさせていただきました。松本会長からは、私が管理運営しているホテルの話もするよにと仰せついております。まずは私の職業のお話、そして私とロータリーとの出会いから当クラブの奉仕プロジェクトの紹介、そして、今後の日本のロータリーが目指す点につきましての私見、そのような順番でお話を始めたいと思います。

私の会社で管理運営をしているホテルは、勝浦市は興津という小さな町でございます、「ホテルブルーベリーヒル勝浦」と申します。敷地面積は約20万坪、その中にホテル棟が点在しており、総客室数は82室、そして4ベッドルームを備えたコテージ棟が1棟、レストランは2ヶ所ございます。このホテル、あまり知られてはおりませんが、所有者は、東京にあります私立の高校・関東国際高等学校という学校です。この学校の所在地は渋谷区本町、とは申しませんが、新宿に近いエリアで、敷地面積もたいへん狭く、校庭も猫の額ほどです。高校3学年だけとは言え、総生徒数は1,200人と多く、当時の学校理事長は、都会の生徒に自然と触れ合い、のびのびとスポーツ学習が出来る施設を、ということで、校外施設の着工を決めました。

ゼネコンさんの協力を得て全国各地を調査した結果、勝浦市興津にまとまって入手できそうな土地があると分かったそうです。そして昭和58年頃から、当時は山と谷だった用地の買収を進めました。施設開発にあたりましては、学校である関東国際高等学校と、当時の学校理事長の息子さんが経営する、東京に本社を構えますランドアート株式会社、この2社の共同による大規模開発と言う形で進められました。何しろ買収した用地は原野と山林で、それを平らにしてインフラを整備し建物を建てるという計画です。また当然、大きな開発ですので、学校側は東京都学事部の許可、ランドアート側は国の許認可が必要です。学校側の学事部からの許可はすぐに下りましたが、国の許認可には時間がかかりました。昭和60年に正式に大規模開発計画書を提出してから、許認可をいただいたのは平成元年、許認可が出るまで4年近くかかったわけです。そしてこの年に起工式を行っております。

さて私はといえば、学習院大学という大学では部活の馬術部に明け暮れ、4年生の時には就職もあまり考

えずにいた折に、馬術部の先輩から、この東京にあるランドアート株式会社を紹介されました。私の先輩とこのランドアート(株)の社長は学生馬術で同期で、しかもランドアートの社長は、東京オリンピックの馬術代表選手でもありました、私にとりましては雲の上の存在の方でした。そのようなご縁で、大学4年の頃は、まずはアルバイトとしてランドアート(株)の東京事務所に赴き、来客応対、電話受け、経理処理、各種書類作成など様々な雑務に携わっておりました。この頃の勝浦の現場は、開発の申請を済ませ、許認可を待っている状態でしたので、認可が下りたらすぐに工事着工という準備を進めておりました。とは申しても、大体のことは契約しているゼネコンさんが行うので、会社の事務員もそんなに人を置く必要がなく、アルバイトの私のほかには正社員が2人という、たいへんコジマリとした事務所でした。卒業が近くなり、ランドアート(株)にはそのようなご縁をいただきながら、私の中で、どうしても本場の馬術をもう少し学びたいという気持ちがあり、大学を卒業して1年弱、馬術の勉強にスイスとイギリスに渡りました。

海外の素晴らしい乗馬の環境に感動を覚え、また帰国してからは日本のプアな馬術設備の現状に改めて失望を覚え、馬のプロになるのは諦め、ランドアート(株)の社長に再び連絡を入れましたところ、人手はまだ必要だから、ということで、社員として入社させていただきました。これが昭和63年の時です。そして翌年の平成元年の秋に、ようやく開発許可があり、晴れて、学校とランドアート(株)の両者による起工式が行われました。いよいよ、造成・インフラ整備、そして上物の建設にスタートを切ることが出来ました。学校とランドアートの2社による開発と申しましたが、学校用地にある山を切り崩し、ランドアート用地にある谷をその切り崩した土砂で埋めて造成を進めてゆくという形でした。また、上下水も自前で整えました。当時、勝浦市の水道水は水源が乏しく、市民に供給する他に余裕がなく飲料水の供給は出来ない・自前で井戸を準備してやってくれと、市のほうから言われたからです。ボーリングをし、井戸は敷地内に2基準備して現在も自前の水道水を使用しています。また、下水施設も同様で、市では汚水排水を受けいれてもらえなかったため、下水処理施設も敷地内に2ヶ所建設してございます。

また、苦労したのは電気です。電気の供給は東京電力からですが、計画では敷地内はすべて地下埋設とし、電柱と電線なしの計画でした。ところが東京電力サイドでは、今までに前例がなく、万が一故障した折の責任が取れない等々で、なかなか首をたてに振ってくださりませんでした。ゼネコンさんと施主サイドで何度も嘆願し、結果、地下埋設が許可となりました。

荒造成とインフラの整備が終了してから、建物の竣工については、学校の施設のほうが少し早く進みました。平成4年から5年にかけて、生徒が宿泊する宿泊棟4棟16室を皮切りに、教室棟と徐々に建築が進み

ました。平成7年には、東京都学事部の許可を得て、生徒が使用しない時期(夏休みや冬休み、週末など)は、収益事業としてホテル運用をスタートし、一般のお客様の受け入れが始まりました。少し遅れて建設がスタートしたランドアート㈱の土地に建てたホテルは、平成9年にオープンしました。

さて、私が昭和63年にランドアート㈱に入社してから、具体的にどのような仕事をやっていたかについてご説明致します。共同開発者である当時の関東国際高等学校は、早くから「実際に話せる英語を」ということで、アメリカの大学と提携し、生徒に2~3ヶ月間、そのアメリカの大学寮への滞在やホームステイをさせながら、大学での特別講義を受講させていました。そのようなアメリカとの関係から、当時の理事長をはじめ学校幹部も、洋風の建築材料や建物のダイナミックさに着目しておりました。そして勝浦の校外施設の宿泊棟にも同様の趣を求めました。ちょうど私が入社した時は、テストとして様々な建材が正に日本にコンテナ船で到着する間際で、英語のインボイスや貨物明細の翻訳、そして建材カタログの翻訳などを担当致しました。そしてアメリカの大学側が紹介してくれた、アメリカの工務店と親しくなり、勝浦の宿泊棟に使えるような、そしてそれは生徒だけではなくホテルとして一般にも通用するような輸入建材の発掘に携わりました。その当時はメールはまだなく、やりとりは主にファックスで、私はといえば、日本語でも建築関連用語はさっぱり分からないのに、それを英語で勉強しなければならず、当時は10時11時まで残業をしながらの日々が続きました。アメリカの工務店も数回訪ね、建材のショールームを案内してもらったりしながら、使用する建材を最終的に決定する流れとなりました。そして実際の建材輸入業務もランドアート㈱で引き受けることとなり、その具体的な業務を私のほうで担当致しました。当時は、外国の建材の代理店などいくつかございましたが、大量の建材となると、直接輸入するほうが安いからです。

多くの輸入建材を利用した、学校の一連の建築が終了し、すぐさまランドアートでもホテル建築に着手となり、引き続き建材の輸入業務は続きました。日本の設計士はメートル法に基づき設計を致しますが、アメリカではフィートとインチが使用されます。輸入した建材を実際建てていただく地元の工務店さんにお渡しするのですが、その寸法の換算、つまりフィートとインチをミリ・メートルに計算しなおす作業が、一番面倒で大変だったことを今でも思い出します。

平成9年、ランドアート用地でのホテルに加え、他社経営によるタラソテラピー施設がオープンし、開発会社としても建材輸入業についても一旦区切りをということと、敷地内の管理運営を明確にするため、翌々年の平成11年に、ビーエイチエス株式会社を設立の運びとなりました。当時のランドアート㈱の社長は、学校の理事長であったお父上がお亡くなりになった関係で、理事長職を継承されておりました。結果、新会社ビー

エイチエス㈱の代表取締役は、ランドアート㈱の中でも一番古株でありました私ということになりました。35歳の時でございました。ランドアート㈱の流れで、本社は変わらず東京に置き、ブルーベリーヒル勝浦でのフロント業務・施設管理業務・レストラン運営業務を引き受ける会社となりました。

大好きな馬との関わりは、母校の馬術部を細々と支援したり、コーチを引き受けたりと、完全に断ち切れてはおりませんでした。そんなところに、息子さんが乗馬のオリンピックでご活躍された、日本馬術連盟の当時の副会長をされていた女性が、「きちんとした美しい乗馬施設を作りたい」ということで、勝浦に視察に見えました。その女性は、学校の理事長とも旧知の間柄で、話は進み、土地の一部をお譲りして、その土地に、雨でも馬に乗ることが出来る素晴らしい室内馬場と、20頭の馬が収容できる厩舎、そして芝の馬場が完成致しました。平成16年のことでした。

しかしその3年後、何とも残念なことに、その女性オーナーが急逝されます。オリンピック選手であった息子さんとご主人にも先立たれていらっしゃる、この素晴らしい乗馬施設を引き受ける方はお身内ではいらっしゃらず、結果、学校のほうでお引取りさせていただく事となりました。学生の頃、何となく、馬に関わった仕事が出来ればと思っていたことが、新たに乗馬クラブ管理運営という仕事で関わることが出来たのは、不思議な感覚を覚えました。

さて、ブルーベリーヒルでお迎えするお客様は、大別して2種類でございます。関東国際高等学校の生徒さんと、一般の宿泊客です。高校生については、すべての生徒は、1年時の春・秋、2年時の春・秋、そして3年時の春、計5回、クラス単位で、月曜日に勝浦入りし、金曜日に帰京するというプログラムが用意されています。今では4つある教室を使って勉強もしますし、何よりも本校に比べるとずっと広いグラウンドを利用しての様々なスポーツ授業がメインです。敷地内で野菜の植え付けや収穫も行えば、敷地外では田んぼを借りて、田植えから稲刈りも行います。更に最近では選択科目と称して、和食あるいは洋食の基礎を学んだり、ハーブ教室、スポーツのクラスもあります。そのような時は、弊社ビーエイチエス㈱のスタッフは当然生徒さんのお手伝いを致します。フロントスタッフが個々のスキルをもって、ハーブ教室の担当になったり、スポーツ部門を請け負ったりと、ある時はホテルのスタッフ、ある時は学校のお手伝いという形で対応しております。

さて次に、私とロータリークラブとのかかわりについてをお話いたします。来月のガバナー月信 2月号に、ガバナー・ミニージェジグナイトとしての挨拶として文章を書くように仰せつかり、そちらでも少々書かせていただきましたが、私の通っていた学習院女子高等科では、毎年2~3名の長期交換学生がいました。インバウンドの学生は、主にオーストラリア乃至はニュージー

ランドからの交換学生でした。インターアクトクラブこそなかったのですが、伝統的に、1970年からロータリーの交換学生制度を導入し、それは現在も続いています。また当方からのアウトバウンドもあり、学内で試験を行い派遣学生を決めています。私の親友も申し込み、見事合格しブラジルへ派遣され、当時はメールなどありませんから文通をしていたことを思い出します。また、私には3歳上の姉がおりますが、今から30年近く前、姉がアメリカ・ボストンの大学院に留学をする際に、東京麹町ロータリークラブ様にスポンサーとなっていただき、当時の「ロータリー財団国際親善奨学生」という名目の援助を1年間いただきましたのは、とても身近な存在です。そういうわけで、高校生の頃からロータリークラブというものの存在は認識をしていました。

また奉仕活動という点においてですが、私は小学生から高校まで、ガールスカウトに所属しておりました。ガールスカウトでは、共同募金活動で街頭に立ったり、また障害を持つ児童との交流、夏休みを利用して短期の海外派遣など、視野を広め社会奉仕の一端に触れる機会がありましたことは、人生の初期における得がたい貴重な経験とっております。

勝浦RCへの入会は、今から10年前、ちょうど当クラブが創立45周年を迎える前の年に、ブルーベリーヒル勝浦でお世話になっております工事関係の社長さんから勧誘を受け、入会をお許しいただきました。入会当時は、先輩女性会員が2名いらっしや、総勢45名程の規模だったと思います。その女性会員も諸事情で程なくおやめになりましたが、現在は私の他にあと3名の女性会員がおり、総勢40名の会員数でございます。

すべての新会員と同じく、入会当時は、飛び交うロータリー用語に苦労し、また比較的年齢層が高かったものですから、なじみづらい部分はありました。それでも、先輩ロータリアンの皆さんもまたお気遣いや暖かい配慮などをしていただき、そして入会の翌年に迎えた創立45周年記念事業や式典を経験しまして、年代を超えて当クラブの結束の強さを感じました。

またうちのクラブには事務局がございません。クラブ週報は週報委員長が、会計や諸事お知らせはすべて幹事が行います。入会2年目でクラブ週報の担当となり、毎週の会員の発言や卓話などをテープに取りテープ起こしをして週報を作成する作業には数時間かかり、とても憂鬱な気分であったことを思い出します。しかしその際に、様々なロータリー用語が出てきます。それを確認のためサイトで検索してチェックしてゆくうちに、だんだんとロータリー用語に慣れ親しんでゆきましたのは、ある意味有難かったです。今でも、クラブの中で最も大変な役割は週報を作成する週報委員長ですが、最近では若い会員が少しずつ入会し、1年ごとに役目を背負っていただけるので、とても助かっております。

クラブ内におりますとなかなか気づかない点で特に

誇らしく嬉しく思ったことがあります。それは入会してから5年目だったと思いますが、RLIに出席したときのことです。RLIは、若手の会員が行くものだと聞いておりましたので、出かけてみましたら、ほとんどすべての方々はR歴10年以上のベテランの方々ばかり。そのような方々とのディスカッションの中で、しばしば、勝浦RCは奉仕活動は活発だし、長期の交換学生も20名近く輩出している、とても素晴らしいというお言葉を、本当に多くの方々からいただきました。自分の中ではルーティーンワークと申しますか、例年行っている奉仕は当たり前のごとで、それに加えて、補助金などを使って毎年何らかのプロジェクトをやっておりますが、それに対してお褒めの言葉を多々いただきましたこと、とてもびっくりしましたし、誇らしい気持ちになりました。これも、当クラブの先輩ロータリアンが築き上げてくださったものの賜物だと思いました。

ここで当クラブの奉仕プロジェクトのひとつをご紹介します。2015年度、ちょうど私がクラブ会長を仰せつかった年度に取り掛かりました、グローバル補助金を活用しての事業、スリランカに安全な飲料水を提供しようというものです。この事業を実施するきっかけは、やはり先述の、関東国際高等学校が大きかったです。現在の関東国際高等学校は、国際高校と言う部分で、学科の選択肢、特に語学における選択肢が多くございます。ご紹介しますと、外国語科というくくりの中に、英語コース・中国語コース・ロシア語コース・韓国語コース・タイ語コース・インドネシア語コース・ベトナム語コースとございます。また、高校生がグローバルな視野を持ち互いの意見を交換し交流が出来るよう、世界21の国と地域の学校がインターネットを通じての交流や、学校間での交換留学など様々な国際交流活動をしています。

その中のひとつに、スリランカのコロomboにある高校、ロイヤルカレッジという学校がございました。このロイヤルカレッジの方と話すきっかけがあり、そして判明したのは、ロイヤルカレッジにはインターアクトがあり、スポンサークラブはコロomboRCであるということ、そしてコロomboRCは、設立1929年(来年がおそらく創立90年)、世界で89番目に出来たクラブでスリランカ国内では一番古い伝統のあるクラブであり、毎年多くの奉仕プロジェクトを実施していること、そしてちょうど、グローバル補助金事業として、清潔な飲料水を提供するプロジェクトを企画しており、そのパートナーを探しているということでした。

世界では清潔な飲料水を得ることが出来ない人は10人に1人の割合であるとか、不衛生な環境による子どもの死亡は20秒に1人であるとか、そのようなことは財団のレポートから多々聞いておりました。スリランカにおいては、農業が盛んで、コメの栽培が主力ですが、農薬を多く使うことにより、地下水が汚染され、その井戸水を飲み続けている人々に、腎臓疾患や失明など、重篤な症状が発症しているそうです。本来は

政府がそのインフラを整え、あるいは農薬の代わりになる農業方法を指導しなければならないのですが、それがとても追いつかない。コロomboRCでは、すでに2010年度に、当時のマッチンググラントを使用して、農村部の汚染された井戸に浄水器を設置するというプロジェクトを実施しており、2015年度も再び、同様のプロジェクトを企画しておりました。

また、当時、2015年度ですが、当時のRI会長はそれこそコロomboRC会員のラビンドラン会長でした。そしてその年のRIテーマは、「世界へのプレゼントになろう」というものでした。

私達日本人は既に素晴らしいプレゼントを、スリランカからいただいております。ご周知の方も多いと思いますが 第二次大戦で敗戦国となった日本、その後のサンフランシスコ講和会議において、敗戦国としての責任が問われた中、当時のスリランカ代表であったジャワルダナ代表が、ブッダの言葉を用いて素晴らしいスピーチを行い、日本への賠償責任請求を放棄するよう訴えました。この感銘的なスピーチは満場の拍手で迎えられ、このスピーチというプレゼントのおかげで、日本は賠償責任も免れ、領土も失うことなく、今の日本があります。今度は、私達がスリランカの人々のためにプレゼントをする番であると思ったのも、今回のプロジェクトの実行に踏み切ることになった発端の1つです。

コロomboRCの担当の方とは、メールでやりとりをさせていただきましたが、先方の対応もとても早く、ある程度メドがたった時点で、まず私が2015年の3月に単独でスリランカを訪問致しました。スリランカという国は、富裕層はとても裕福であり、コロomboRCの方々も都市部で事業を営む方々の集まりでした。たいへんな歓待を受けたことはもちろん、スリランカの方々の人間性というのは、とても日本人の感覚に近いものがあると感じました。穏やかで、物静かな感じです。国民の7割近くが仏教徒であり、そのような背景もあるのかもしれませんが。

プロジェクトの概要は、コロomboから車で約6時間北に進んだところにある、アヌラダプラという地域の、5つの村や寺院や学校に、浄水機器を設置するというものでした。浄水機器は逆浸透システムを利用したもので、スリランカの企業のもを導入します。グローバル補助金の条件のひとつに、sustainability 持続可能性というものがありますが、浄水機器のメンテナンスには近くの地元の企業に携わってもらうのが最も有効であるとの考えからです。またメンテナンス費用ですが、今回設置する浄水機器からの水を1リットルあたり1ルピーから2ルピーで販売し、それを貯金して、フィルターなどの消耗品のメンテナンス費に充当するというシステムを構築しました。

私もその時にアヌラダプラに同行し、浄水器設置現場を回り、村人の話を聞くことが出来ました。都市部から離れると人々の生活はとても質素で、裸足で歩く

人も多々います。最初の訪問はそのような形で、プロジェクトの必要性や、パートナークラブとなる方々との信頼関係を築く第一歩となりました。帰国後、当時のうちのクラブの理事会に諮り、クラブとして正式に取り掛かることになりました。2015年9月、実施国側クラブはコロomboRC、援助国側クラブが勝浦RC、そしてその他に、ドイツとシンガポールの2つのクラブからの援助もいただけることとなり、事業計画書を整え、オンラインにて財団へ申請致しました。そしてその後、財団より更なる質疑が2回ほど来ましたが、その年 2015年の11月、晴れて財団より承認の連絡をいただきました。

翌年2016年2月、当クラブの会員総勢5名で、スリランカを訪問しました。またも暖かいおもてなし、そして今回はコロomboRCと姉妹クラブ契約を締結の運びとなり、その調印式も執り行われました。そして現場を回り起工式に参加して参りました。どの現場でも、村の人々の歓迎の踊りに先導され、お坊さんのお祈りの中、金に塗られたろうそくの台に順番に火をともし、その後はお心づくしのお食事です。おそらく村の人々にとっては、結婚式か大きなお祝いの会でしか供されないようなお料理が、私たちのために振舞われ、大変心苦しく感じたのを今でも覚えております。

同年2016年秋には竣工式の運びとなり、再びスリランカへ。私のほかにもう1名の当クラブ会員、そして当時、地区グローバル補助金委員会委員長であられた、市原中央RCの時田会員もご一緒して下さいました。竣工式では、財団からの条件の一つである、「清潔な水の大切さを利用者に認識してもらう」ためのレクチャーを各現場で開催致しました。スリランカ人のお医者様にご同行いただき、すべての現場で、水による健康被害の状況などを説明していただき、住民にも理解納得していただいたと思います。

グローバル補助金プロジェクトは3年以内に完了させ、財団に最終報告書を提出します。今年の7月が最終報告書の提出期限です。しばらくはスリランカに行くことは無いと思いますが、あの暖かいロータリアンや地域の人々との親睦・交流・築いた友情は忘れられません。また私は辛いものが大好きなのですが、スリランカの代表的なお料理はカレーで、これがまたとても美味しかったです。何度もごちそうになりましたが、お腹の調子が悪くなったことは一度もありませんでした。というのは、スリランカの南のほうでは、カツオが捕れるそうで、それを干して荒削りにしたもの、つまり日本のかつおぶしですね、その荒削りのものをカレーのダシに入れるそうで、そのおかげで、胃に優しく日本人にも合う食事なのかも知れません。またカツオといえばわが町勝浦、勝浦でもカツオの水揚げ高は全国でも3本の指に入ります。このようなことでも、スリランカとの縁を感じました。

ともあれ、現在で約1,000世帯、延べ5,500人の人が清潔で安全な飲料水を格安で手に入れることが出来ております。が、スリランカの今回の現場近辺に

は、まだ200以上の汚染された井戸を使用しなければならない人々がおります。何かの機会にまたパートナーとなるのが出来れば、個人的には再度プロジェクトに参画したいと思っております。

ロータリーに入会させていただいたおかげで、素晴らしい人々とめぐり合うことが出来、地域や世界でよいことをしようという、ガールスカウト時代に培われた気持ちが再び沸き起こり、そして、まさかこのような海外での奉仕プロジェクトを実施する運びとなるとは、当初はゆめ思いませんでした。奉仕プロジェクトと私たちは言っていますが、この奉仕と言う言葉が実は曲者でございまして、最後になります、ガバナー・ミニデーグネット(以下GND)として最近得た感想を述べさせていただきます。

GNDを拝命いたしました昨年の秋から、地区のあらゆる委員会にオブザーバーとして同席させていただきましたことにお許しいただきました。これは私にとりまして、とても有難い研鑽の場でございます。私は、昨年の秋から、千葉西RCの海寶会員のお取り計らいにより、急遽、地区R研修委員会の仲間入りをさせていただきました。本日こちらにご出席の、銚子RCの宮内会員や銚子東RCの藤崎会員には、同じ委員会ということで、大変お世話になりご指導をいただいております。それ以前は地区委員の経験も全くなく、おそらく多くの方が疑問に思っているかとお察し致します。そのような中で、直近ガバナー2-3名に当該年度ガバナー・ガバナー・ミニデーグネットに私を加えたメンバーで「地区戦略委員会」においては、変化する世界に臨機応変かつ柔軟に対応すべく、中長期的な計画を話し合っております。もうお聞き及びかもしれませんが、今年の7月1日から、当地区での分区という呼び方を変えます。分区に変わり、グループとなります。これは、日本の34地区のうち、19地区、すなわち半数以上がグループという呼び方をしております。周囲に遅れを取らないようにという見解のもとでの決定です。また、今までは当地区には第3分区がA/Bと分割されており、全部で14の分区がありました、この第3分区のA/Bをなくし、通し番号にします。ですので、現在の第3分区Aは第3グループ、現在の第3分区Bは第4グループとなり、以下番号がひとつずつずれてゆきます。こちら銚子さんと東さんは第7分区ですので、7月からは第8グループとなりますし、私どもは第5分区から第6グループとなります。慣れるまでとまどう部分があるかもしれませんね。

最後に、故織田パストガバナーについて、お話をさせていただきます。織田PDGは、私がうちのクラブで職業奉仕担当理事となった年度のガバナーでございました。ちょうど今月は職業奉仕月間で、本日がその最後の日となっております。織田ガバナーの年度では私は入会2年目でございまして、5大奉仕の中で職業奉仕についてのみは、多くの新会員同様、とても違和感と申しますか、素直に理解が出来ないままでありまし

た。織田ガバナーが招集されました地区研修協議会において、職業奉仕を今年度の最重要課題とすると仰り、続く分科会では、土屋パストガバナー(だったと思います)が、職業奉仕をとて分かりやすく説明され、頭の中の霧が晴れたような気持ちでしたのを、今でも鮮明に覚えております。また織田ガバナーの当クラブへの公式訪問の折には、私は担当理事として、職業奉仕委員会の考え方と活動計画を申し述べさせていただいた時に、入会して日も浅いのにとて理路整然と職業奉仕を解釈していますね、と、お褒めの言葉をいただきましたことは、今でも忘れることが出来ません。織田ガバナーは、職業奉仕のバロメーターとなる「4つのテスト」や、職業奉仕はロータリアンが常に忘れてはならない倫理観であるといった、理論を丁寧にご教示下さったと理解しております。今でも、織田ガバナーに対する感謝と尊敬の念は変わりません。

そして時代は移り、今年度寺嶋ガバナーのテーマ「理念と実践」にもございますように、今は実践、実際にアクションを起こすことが奨励されております。日本のロータリアンは、こと難しく思われがちな職業奉仕という言葉の説明するため、理念・理論の構築で忙しくなってしまうがちのように思います。職業奉仕を説明するために様々な理屈付けをし、それを語り合っただけで満足してしまっているロータリアンが多く見受けられるようです。

結局は、Service イコール奉仕と訳されてしまっているところに問題があるように感じます。例えば、Ideal of Service これは、今では奉仕の理念が正式訳となっておりますが、当初は奉仕の理想と訳されておりました。RIの翻訳は、RI日本語部門が翻訳をし、それがオフィシャルに日本に伝達されますが、何かと2字熟語を使いたがる傾向も否めません。今月のロータリーの友に、元RI理事で茅ヶ崎湘南RC所属の松宮剛氏、2月の地区大会でも当地区へRI会長代理としておいでいただきますが、その松宮氏が職業奉仕について書かれておられました文章の中で、Ideal of Service を 奉仕の理念ではなく、サービスという考え方と訳されておられます。どうでしょう、とても分かり易いと思いませんか？更に私的には、サービスという言葉、「人のためになることをする」と考え、そうすると、奉仕の理念は、人のためになることをするという考え方となります。ロータリーの目的の序文を言い換えますと、「ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として、人



のためになることをするという考え方を奨励し。。。となります。前半の「意義ある事業の基礎」の部分がまだ硬いですから、解釈としてはこの部分は有益な企業活動の基本として、としたりいかがでしょうか？

また 職業奉仕、Vocational Service ですが、このService を同様に「人のためになること」と訳し、職業において人のためになることをしようと訳したりいかがでしょうか？ ついでに、Vocational 職業を、商売や仕事ともっと易しく訳したりいかがでしょうか？ 自分が商売や仕事をするうえで、他の人のためになることをすると解釈したりいかがでしょうか？ そうすると、ひところ言われていた、職業奉仕の受益者は自分であるという解釈からひとつ抜け出し、職業奉仕は他の人、つまり、お客様や従業員、その家族、関係者、などなど、他人のためになるという側面を持っていることが分かりますし、利益の配分は4つのテストにならない、売り手だけが儲かるのではなく、あるいは買い手が得するだけでなく、公平を心がける必要があるのだと思います。私自身の仕事を通してそのように考えますと、ホテル業は分かり易いというか、まずはお客様に喜んでいただく・お客様のためになるようなサービスをすることです。そしてそこには、適切な対価、つまり宿泊料金が発生するのです。

そして更に、自分が仕事上で得たスキルを他の人のために、地域であるいは世界で、役立つ、それは社会奉仕・国際奉仕・青少年奉仕へと繋がってゆくのです。当地区では、地区の職業奉仕委員会は、従来は金字塔のように別個に独立していましたが、ここ数年は奉仕プロジェクトの中に包括されております。職業奉仕は自己研鑽でもなく受益者は自分でもなく、他の社会奉仕や青少年奉仕などと同様に、人のためになる活動をしようという概念であるからです。また、あらゆる奉仕活動にはお金がかかる場合がほとんどでございます。地区戦略委員会では、今まで縦割りでありました奉仕プロジェクト委員会と、ロータリー財団委員会、この2つの横の連携を呼びかけ、クラブで行う奉仕活動は、どんどん地区補助金乃至はグローバル補助金を申請して行っていただくよう、アナウンスをしてゆく方針でございます。そして何と申しましても、ロータリー財団の財源は、皆様からのご寄付でございます。昨年度は、寄付ゼロクラブが日本でゼロということもあり、RIイアン・ライズリー会長も感激と感謝を表明されております。これは大変誇らしいことと思っております。

とりとめのない話でまとまりませんが、最後に、ポール・ハリス語録をいくつかご紹介いたします。

* 世界は絶えず変化しています。そして私たちは世界とともに変化する心構えがなければなりません。

* ロータリーの物語は名度も書き換えられなければならないでしょう。

* ロータリーが、しかるべき運命を切り開くには、常に進化し、時には革命的にならなくてはなりません。

世界中のロータリアンから、日本はガラパゴス化、進

化が止まったままと言われたいのためにも、まずはロータリーを難しく考えず易く理解し、そしてご一緒に世界の変化に対応してゆきましょう！ ご清聴誠にありがとうございました。

懇親会



(進行)

永澤 信親 睦活動委員長



挨拶 銚子東RC泉川会長



乾杯
銚子東RC大内副会長

新入会員紹介(2017.1以降入会)



寺内 忠正 会員
2017/4/5 入会



泉 英伸 会員
2018/1/24 入会



劇団松本 vol.2

銚子・銚子東RC合同例会特別公演

大物〇〇プロダクション社長による
 食い逃げ(祭)事件!!判決の行方は?



北さんの歌唱力が…。



衝撃の結末…!?

キャスト

松本会長 副島会員 小林幹事
 遠山会員 宮内秀章会員 寺内会員
 石毛充会員 永澤会員



閉会挨拶
金島 弘副会長





2017-18 年度銚子・銚子東 RC 合同例会 2018.1.31 太陽の里

【出席報告】合同例会 100%

【M U】なし

【ニコニコ】

ニコニコ BOX	¥ 10,000	計	¥362,250
スモールコイン	¥ —	計	¥ 32,326
米山 BOX	¥ —	計	¥ 34,008
希望の風	¥ —	計	¥186,201

次週のプログラム（2月14日）

「新入会員卓話」
泉 英伸会員

お弁当：辰巳家（にぎり）



2018年2月のロータリーレート 110円

会員投稿



【七回目の年男を迎えて】

桜井 広和会員

七回目の年男を迎えることが出来ました。
1934年1月31日が誕生日なので84才になった訳だ。還暦の頃はそれなりの思いもあったが、自分が84才と云う年が信じられない。

先日家族の反対にあったが車の免許証の更新をした。認知機能検査は問題なく通過出来痴呆はあまり進んでないようだが物忘れや行動がかなりひどくなっている。それなりの注意をしなければと強く自覚している。

それにしても年が明けたと思っていたらもう $\frac{1}{12}$ ヶ月過ぎてしまった。この年月の過ぎる早さは尋常ではない。この先が恐ろしくなる。気がついたら3年5年はあっと云う間に過ぎてしまうだろう。どうして年を重ねるとこのように一年が短く感じるようになるのだろうか？・・・いろいろな説があるが、今まで生きてきた年齢を分母として一年の長さを考えると納得出来る気がするが…20年生きた人の1年は $\frac{1}{20}$ であり60年生きた人は $\frac{1}{60}$ 、84年生きた人は $\frac{1}{84}$ と考えると理解出来る。

時間は過去から現在そして未来と一定に流れているが今の自分は過去ばかりが重なりあっているようだ。去年も多くの友人との別れがあった。人生の終りじたくをしなければならぬ。残りの少なくなった歳月をどう過ごしたら良いのだろうか？人それぞれの思いがあるだろう。夫婦が健康で暖かい家庭といつでも心が開ける友人達を持ち折にふれ楽しい語らいが出来、清潔で気のきいた“おしゃれ”を楽しみ美味しいものを少し食べ好きな音楽を聴き、病気になるたら過剰な医療を受けなくて自分らしく終わりたいと考えている今頃である。